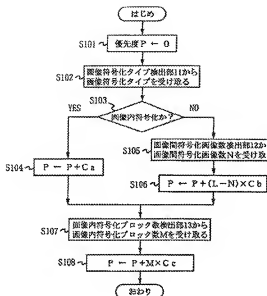
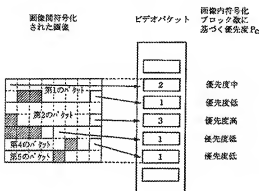


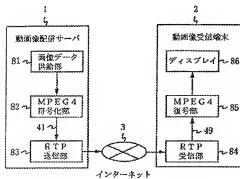
【図6】



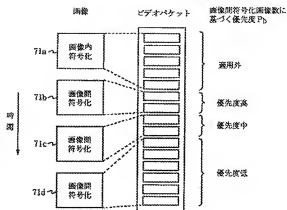
【図9】



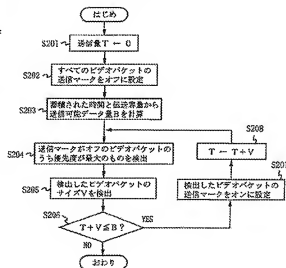
【図15】



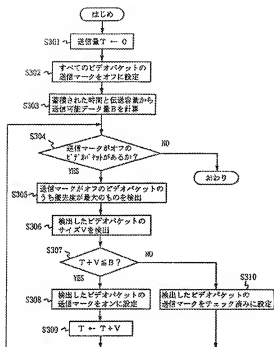
【図8】



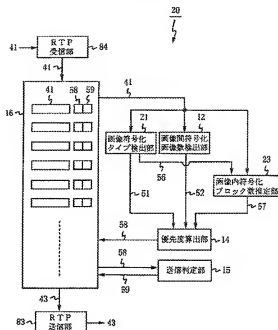
【図10】



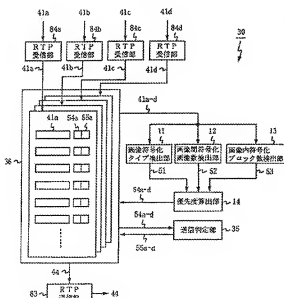
【图 1-1】



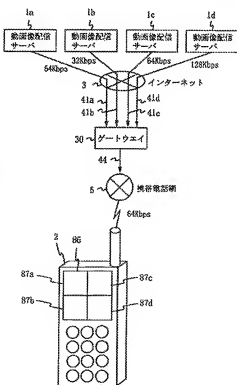
【例 12】



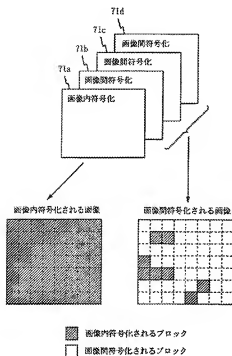
【图 1-3】



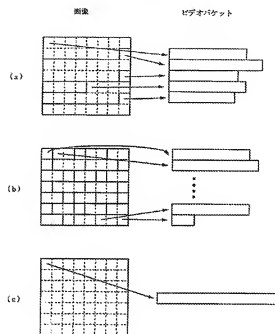
【例 1-4】



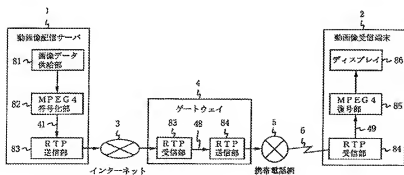
【図 16】



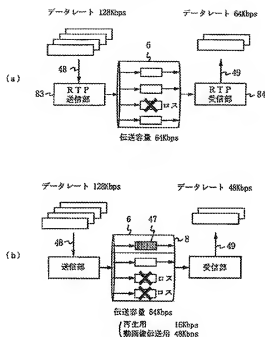
【図 17】



【図 19】



【図20】



フロントページの続き

(72)発明者 井村 康治

神奈川県横浜市港北区綱島東四丁目3番1  
号 松下通信工業株式会社内

(72)発明者 井戸 大治

神奈川県横浜市港北区綱島東四丁目3番1  
号 松下通信工業株式会社内

Fターム(参考) 5C059 MA00 MA05 PP04 RB02 RB09

RC12 S508 S510 TA73 TC00

TC27 TD07 TD11 UA01 UA02

UA04 UA05 UA38

5C064 BA01 BB05 BC10 BC16 BD08

BD14

5J064 AA02 BC01 BC26 BD02

SK030 HA08 HB02 HC02 JA05 JL01

JT01 KX11 LE14 MB11

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成16年12月24日(2004.12.24)

【公開番号】特開2002-112265(P2002-112265A)

【公開日】平成14年4月12日(2002.4.12)

【出願番号】特願2000-334854(P2000-334854)

【国際特許分類第7版】

H 0 4 N 7/24

H 0 3 M 7/30

H 0 4 L 12/56

H 0 4 N 7/173

【F I】

H 0 4 N 7/13 Z

H 0 3 M 7/30 Z

H 0 4 N 7/173

H 0 4 L 11/20 1 0 2 A

【手続補正書】

【提出日】平成16年1月16日(2004.1.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

各ビデオパケットについて、画像の符号化方式に関する属性値を検出する属性値検出部と、

複数の前記属性値に基づき、各前記ビデオパケットの優先度を算出する優先度算出部と、  
前記優先度に基づき選択したビデオパケットを送信するパケット送信部とを備えた、動画  
像符号化データ送信装置。

【請求項2】

動画を構成する各画像ごとに画像内符号化または画像間符号化を選択し、画像内符号化すべき画像に含まれるすべてのブロックを画像内符号化し、画像間符号化すべき画像に含まれる各ブロックを画像内符号化または画像間符号化して得られた動画像符号化データを送信する動画像符号化データ送信装置であって、

前記動画像符号化データを画像のブロック単位で分割して得られた複数のビデオパケットの供給を受け、前記ビデオパケットを蓄積するパケット蓄積部と、

各前記ビデオパケットについて、画像の符号化方式に関する複数の属性値を検出する属性値検出部と、

前記複数の属性値に基づき、各前記ビデオパケットの優先度を算出する優先度算出部と、前記パケット蓄積部に蓄積されたビデオパケットのうち、前記優先度と許容される伝送容量とに基づき選択したビデオパケットを送信するパケット送信部とを備えた、動画像符号化データ送信装置。

【請求項3】

前記属性値検出部は、

各前記ビデオパケットに対応した画像の符号化タイプを検出する画像符号化タイプ検出部と、

各前記ビデオパケットに対応した画像と当該画像よりも前にあって最も近い画像内符号化

された画像との間にある画像の数を検出する画像間符号化画像数検出部と、各前記ビデオパケットに含まれる画像内符号化されたブロックの数を検出する画像内符号化ブロック数検出部とを含むことを特徴とする、請求項2に記載の動画像符号化データ送信装置。

【請求項4】

前記画像内符号化ブロック数検出部は、各前記ビデオパケットについて、当該ビデオパケットに含まれるブロックの数と当該ビデオパケットのサイズとに基づき、当該ビデオパケットに含まれる画像内符号化されたブロックの数を推定することとを特徴とする、請求項3に記載の動画像符号化データ送信装置。

【請求項5】

前記画像内符号化ブロック数検出部は、各前記ビデオパケットについて、当該ビデオパケットに含まれるブロックの数と当該ビデオパケットのサイズと画像内符号化された画像に含まれるブロックの平均データサイズとに基づき、当該ビデオパケットに含まれる画像内符号化されたブロックの数を推定することとを特徴とする、請求項4に記載の動画像符号化データ送信装置。

【請求項6】

前記パケット送信部は、送信されるビデオパケットのデータ量が前記伝送容量を越えない範囲内で、送信すべきビデオパケットを前記優先度に従って選択することとを特徴とする、請求項2に記載の動画像符号化データ送信装置。

【請求項7】

前記伝送容量は、受信装置との間で折衝して定めた値であることを特徴とする、請求項2に記載の動画像符号化データ送信装置。

【請求項8】

前記伝送容量は、通信路の伝送容量から前記通信路においてビデオパケットの再送用に割り当てた伝送容量を引いた値であることを特徴とする、請求項2に記載の動画像符号化データ送信装置。

【請求項9】

前記動画像符号化データは、複数の動画像を個別に符号化して得られたものであることを特徴とする、請求項2に記載の動画像符号化データ送信装置。

【請求項10】

前記パケット送信部は、各動画像を個別に符号化したときのデータ量に応じて前記伝送容量を分割し、前記優先度と分割された前記伝送容量とに基づき、動画像ごとに送信すべきビデオパケットを選択することとを特徴とする、請求項9に記載の動画像符号化データ送信装置。

【請求項11】

各ビデオパケットについて、画像の符号化方式に関する属性値を検出する属性値検出ステップと、

複数の前記属性値に基づき、各前記ビデオパケットの優先度を算出する優先度算出ステップと、

前記優先度に基づき選択したビデオパケットを送信するパケット送信ステップとを備えた、動画像符号化データ送信方法。

【請求項12】

動画像を構成する各画像ごとに画像内符号化または画像間符号化を選択し、画像内符号化すべき画像に含まれるすべてのブロックを画像内符号化し、画像間符号化すべき画像に含まれる各ブロックを画像内符号化または画像間符号化して得られた動画像符号化データを送信する動画像符号化データ送信方法であって、

前記動画像符号化データを画像のブロック単位で分割して得られた複数のビデオパケットの供給を受け、前記ビデオパケットを蓄積するパケット蓄積ステップと、各前記ビデオパケットについて、画像の符号化方式に関する複数の属性値を検出する属性値検出ステップと、

前記複数の属性値に基づき、各前記ビデオパケットの優先度を算出する優先度算出ステップと、

前記パケット蓄積ステップにおいて蓄積されたビデオパケットのうち、前記優先度と許容される伝送容量とに基づき選択したビデオパケットを送信するパケット送信ステップとを備えた、動画像符号化データ送信方法。

【請求項13】

前記属性値検出ステップは、

各前記ビデオパケットに対応した画像の符号化タイプを検出する画像符号化タイプ検出ステップと、

各前記ビデオパケットに対応した画像と当該画像よりも前にあって最も近い画像内符号化された画像との間にある画像の数を検出する画像間符号化画像数検出ステップと、

各前記ビデオパケットに含まれる画像内符号化されたブロックの数を検出する画像内符号化ブロック数検出ステップとを含むことを特徴とする、請求項12に記載の動画像符号化データ送信方法。

【請求項14】

前記画像内符号化ブロック数検出ステップは、各前記ビデオパケットについて、当該ビデオパケットに含まれるブロックの数と当該ビデオパケットのサイズとに基づき、当該ビデオパケットに含まれる画像内符号化されたブロックの数を推定することとを特徴とする、請求項13に記載の動画像符号化データ送信方法。

【請求項15】

前記画像内符号化ブロック数検出ステップは、各前記ビデオパケットについて、当該ビデオパケットに含まれるブロックの数と当該ビデオパケットのサイズと画像内符号化された画像に含まれるブロックの平均データサイズとに基づき、当該ビデオパケットに含まれる画像内符号化されたブロックの数を推定することとを特徴とする、請求項14に記載の動画像符号化データ送信方法。

【請求項16】

前記パケット送信ステップは、送信されるビデオパケットのデータ量が前記伝送容量を越えない範囲内で、送信すべきビデオパケットを前記優先度に従って選択することとを特徴とする、請求項12に記載の動画像符号化データ送信方法。

【請求項17】

前記伝送容量は、受信側との間で折衝して定めた値であることを特徴とする、請求項12に記載の動画像符号化データ送信方法。

【請求項18】

前記伝送容量は、通信路の伝送容量から前記通信路においてビデオパケットの再送用に割り当てた伝送容量を引いた値であることを特徴とする、請求項12に記載の動画像符号化データ送信方法。

【請求項19】

前記動画像符号化データは、複数の動画を個別に符号化して得られたものであることを特徴とする、請求項12に記載の動画像符号化データ送信方法。

【請求項20】

前記パケット送信ステップは、各動画を個別に符号化したときのデータ量に応じて前記伝送容量を分割し、前記優先度と分割された前記伝送容量とに基づき、動画をごとに送信すべきビデオパケットを選択することとを特徴とする、請求項19に記載の動画像符号化データ送信方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

【課題を解決するための手段および発明の効果】

第1の発明は、動画画像符号化データ送信装置であって、

各ビデオパケットについて、画像の符号化方式に関する属性値を検出する属性値検出部と、

複数の属性値に基づき、各ビデオパケットの優先度を算出する優先度算出部と、

優先度に基づき選択したビデオパケットを送信するパケット送信部とを備える。

第2の発明は、動画画像を構成する各画像ごとに画像内符号化または画像間符号化を選択し、画像内符号化すべき画像に含まれるすべてのブロックを画像内符号化し、画像間符号化すべき画像に含まれる各ブロックを画像内符号化または画像間符号化して得られた動画画像符号化データを送信する動画画像符号化データ送信装置であって、

動画画像符号化データを画像のブロック単位で分割して得られた複数のビデオパケットの供給を受け、ビデオパケットを蓄積するパケット蓄積部と、各ビデオパケットについて、画像の符号化方式に関する複数の属性値を検出する属性値検出部と、

複数の属性値に基づき、各ビデオパケットの優先度を算出する優先度算出部と、パケット蓄積部に蓄積されたビデオパケットのうち、優先度と許容される伝送容量とに基づき選択したビデオパケットを送信するパケット送信部とを備える。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

このような第2の発明によれば、各ビデオパケットについて画像の符号化に関する複数の属性値が検出され、検出された属性値に基づき優先度が算出され、さらに、算出された優先度に基づき選択されたビデオパケットが送信される。したがって、再生画像の画質に大きな影響を与えるビデオパケットには高い優先度を与えて優先的に送信することにより、再生画像の画質を大きく劣化させることなく、伝送容量の範囲内で動画画像符号化データを送信することができる。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

第3の発明は、第2の発明において、属性値検出部は、各ビデオパケットに対応した画像の符号化タイプを検出する画像符号化タイプ検出部と、各ビデオパケットに対応した画像と当該画像よりも前にあって最も近い画像内符号化された画像との間にある画像の数を検出する画像間符号化画像数検出部と、各ビデオパケットに含まれる画像内符号化されたブロックの数を検出する画像内符号化ブロック数検出部とを含むことを特徴とする。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

このような第3の発明によれば、各ビデオパケットについて、画像の符号化タイプと画像間符号化画像数と画像内符号化ブロック数とが、画像の符号化方式に関する属性値として検出される。したがって、これらの属性値を用いることにより、各ビデオパケットが再生



画像の画質に大きな影響を与えるか否かを、効果的に判断することができる。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0019】

第4の発明は、第3の発明において、画像内符号化ブロック数検出部は、各ビデオパケットについて、当該ビデオパケットに含まれるブロックの数と当該ビデオパケットのサイズとに基づき、当該ビデオパケットに含まれる画像内符号化されたブロックの数を推定することを特徴とする。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

このような第4の発明によれば、ビデオパケットの構造から容易に得られる属性値を用いることにより、ビデオパケットを復号化することなく、画像内符号化ブロック数を簡易な処理で検出することができる。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

第5の発明は、第4の発明において、画像内符号化ブロック数検出部は、各ビデオパケットについて、当該ビデオパケットに含まれるブロックの数と当該ビデオパケットのサイズと画像内符号化された画像に含まれるブロックの平均データサイズとに基づき、当該ビデオパケットに含まれる画像内符号化されたブロックの数を推定することを特徴とする。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0022】

このような第5の発明によれば、ビデオパケットの構造から容易に得られる、画像内符号化された画像に含まれるブロックの平均データサイズを用いることにより、画像内符号化ブロック数を簡易な処理で検出することができる。

【手続補正 10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0023】

第6の発明は、第1の発明において、パケット送信部は、送信されるビデオパケットのデータ量が伝送容量を越えない範囲内で、送信すべきビデオパケットを優先度に従って選択することとを特徴とする。

【手続補正 11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0024

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0024】

このような第6の発明によれば、送信データ量が伝送容量を越えない範囲内で、優先度の高いビデオパケットを優先して選択することにより、再生画像の画質を大きく劣化させることなく、伝送容量の範囲内で動画像符号化データを送信することができる。

【手続補正12】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0025

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0025】

第7の発明は、第1の発明において、伝送容量は、受信装置との間で折衝して定めた値であることを特徴とする。

【手続補正13】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0026

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0026】

このような第7の発明によれば、受信装置の特性や通信路の状態に応じて伝送容量を切り替えて、伝送容量の範囲内で動画像符号化データを送信することができる。

【手続補正14】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0027

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0027】

第8の発明は、第1の発明において、伝送容量は、通信路の伝送容量から通信路においてビデオパケットの再送用に割り当てた伝送容量を引いた値であることを特徴とする。

【手続補正15】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0028

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0028】

このような第8の発明によれば、ビデオパケットの再送を考慮して伝送容量を決定し、伝送容量の範囲内で動画像符号化データを送信することができる。

【手続補正16】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0029

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0029】

第9の発明は、第1の発明において、動画像符号化データは、複数の動画を個別に符号化して得られたものであることを特徴とする。

【手続補正17】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0030

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0030】

このような第9の発明によれば、複数の動画像に対応したビデオパケットが供給された場合でも、再生画像の画質に大きな影響を与えるビデオパケットには高い優先度を与えて優先的に送信することにより、再生画像の画質を大きく劣化させることなく、伝送容量の範囲内で動画像符号化データを送信することができる。

【手続補正18】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0031】

第10の発明は、第9の発明において、パケット送信部は、各動画像を個別に符号化したときのデータ量に応じて伝送容量を分割し、優先度と分割された伝送容量とに基づき、動画像ごとに送信すべきビデオパケットを選択することを特徴とする。

【手続補正19】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0032

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0032】

このような第10の発明によれば、複数の動画像に対応したビデオパケットが供給された場合には、動画像ごとに伝送容量を割り当て、動画像ごとに送信すべきビデオパケットを選択することにより、再生画像のそれぞれについて画質が大きく劣化することを防止することができる。

【手続補正20】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0033

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0033】

第11の発明は、動画像符号化データ送信方法であって、

各ビデオパケットについて、画像の符号化方式に関する属性値を検出する属性値検出ステップと、

複数の属性値に基づき、各ビデオパケットの優先度を算出する優先度算出ステップと、  
優先度に基づき選択したビデオパケットを送信するパケット送信ステップとを備える。

第12の発明は、動画像を構成する各画像ごとに画像内符号化または画像間符号化を選択し、画像内符号化すべき画像に含まれるすべてのブロックを画像内符号化し、画像間符号化すべき画像に含まれる各ブロックを画像内符号化または画像間符号化して得られた動画像符号化データを送信する動画像符号化データ送信方法であって、  
動画像符号化データを画像のブロック単位で分割して得られた複数のビデオパケットの供給を受け、ビデオパケットを蓄積するパケット蓄積ステップと、  
各ビデオパケットについて、画像の符号化方式に関する複数の属性値を検出する属性値検出ステップと、

複数の属性値に基づき、各ビデオパケットの優先度を算出する優先度算出ステップと、  
パケット蓄積ステップにおいて蓄積されたビデオパケットのうち、優先度と許容される伝送容量とに基づき選択したビデオパケットを送信するパケット送信ステップとを備える。

【手続補正21】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0034

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0034】

このような第1.2の発明によれば、各ビデオパケットについて画像の符号化に関する複数の属性値が検出され、検出された属性値に基づき優先度が算出され、さらに、算出された優先度に基づき選択されたビデオパケットが送信される。したがって、再生画像の画質に大きな影響を与えるビデオパケットには高い優先度を与えて優先的に送信することにより、再生画像の画質を大きく劣化させることなく、伝送容量の範囲内で動画画像符号化データを送信することができる。

【手続補正22】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0035

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0035】

第1.3の発明は、第1.2の発明において、属性値検出ステップは、各ビデオパケットに対応した画像の符号化タイプを検出する画像符号化タイプ検出ステップと、各ビデオパケットに対応した画像と当該画像よりも前にあって最も近い画像内符号化された画像との間にある画像の数を検出する画像間符号化画像数検出ステップと、各ビデオパケットに含まれる画像内符号化されたブロックの数を検出する画像内符号化ブロック数検出ステップとを含むことを特徴とする。

【手続補正23】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0036

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0036】

このような第1.3の発明によれば、各ビデオパケットについて、画像の符号化タイプと画像間符号化画像数と画像内符号化ブロック数とが、画像の符号化方式に関する属性値として検出される。したがって、これらの属性値を用いることにより、各ビデオパケットが再生画像の画質に大きな影響を与えるか否かを、効果的に判断することができる。

【手続補正24】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0037

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0037】

第1.4の発明は、第1.3の発明において、画像内符号化ブロック数検出ステップは、各ビデオパケットについて、当該ビデオパケットに含まれるブロックの数と当該ビデオパケットのサイズとに基づき、当該ビデオパケットに含まれる画像内符号化されたブロックの数を推定することとを特徴とする。

【手続補正25】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0038

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0038】

このような第1.4の発明によれば、ビデオパケットの構造から容易に得られる属性値を用

いることにより、ビデオパケットを復号化することなく、画像内符号化ブロック数を簡易な処理で検出することができる。

【手続補正26】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0039

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0039】

第1.5の発明は、第1.4の発明において、画像内符号化ブロック数検出ステップは、各ビデオパケットについて、当該ビデオパケットに含まれるブロックの数と当該ビデオパケットのサイズと画像内符号化された画像に含まれるブロックの平均データサイズとに基づき、当該ビデオパケットに含まれる画像内符号化されたブロックの数を推定することを特徴とする。

【手続補正27】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0040

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0040】

このような第1.5の発明によれば、ビデオパケットの構造から容易に得られる、画像内符号化された画像に含まれるブロックの平均データサイズを用いることにより、画像内符号化ブロック数を簡易な処理で検出することができる。

【手続補正28】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0041

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0041】

第1.6の発明は、第1.2の発明において、パケット送信ステップは、送信されるビデオパケットのデータ量が伝送容量を越えない範囲内で、送信すべきビデオパケットを優先度に従って選択することの特徴とする。

【手続補正29】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0042

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0042】

このような第1.6の発明によれば、送信データ量が伝送容量を越えない範囲内で、優先度の高いビデオパケットを優先して選択することにより、再生画像の画質を大きく劣化させることなく、伝送容量の範囲内で動画像符号化データを送信することができる。

【手続補正30】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0043

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0043】

第1.7の発明は、第1.2の発明において、伝送容量は、受信側との間で折衝して定めた値であることを特徴とする。

【手続補正31】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0044

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0044】

このような第17の発明によれば、受信側の特性や通信路の状態に応じて伝送容量を切り替えて、伝送容量の範囲内で動画像符号化データを送信することができる。

【手続補正32】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0045

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0045】

第18の発明は、第12の発明において、伝送容量は、通信路の伝送容量から通信路においてビデオパケットの再送用に割り当てた伝送容量を引いた値であることを特徴とする。

【手続補正33】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0046

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0046】

このような第18の発明によれば、ビデオパケットの再送を考慮して伝送容量を決定し、伝送容量の範囲内で動画像符号化データを送信することができる。

【手続補正34】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0047

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0047】

第19の発明は、第12の発明において、動画像符号化データは、複数の動画を個別に符号化して得られたものであることを特徴とする。

【手続補正35】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0048

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0048】

このような第19の発明によれば、複数の動画像に対応したビデオパケットが供給された場合でも、再生画像の画質に大きな影響を与えるビデオパケットには高い優先度を与えて優先的に送信することにより、再生画像の画質を大きく劣化させることなく、伝送容量の範囲内で動画像符号化データを送信することができる。

【手続補正36】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0049

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0049】

第20の発明は、第19の発明において、パケット送信ステップは、各動画像を個別に符号化したときのデータ量に応じて伝送容量を分割し、優先度と分割された伝送容量に基づき、動画像ごとに送信すべきビデオパケットを選択することを特徴とする。

【手続補正37】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0050

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0050】

このような第20の発明によれば、複数の動画像に対応したビデオパケットが供給された場合には、動画像ごとに伝送容量を割り当て、動画像ごとに送信すべきビデオパケットを選択することにより、再生画像のそれぞれについて画質が大きく劣化することを防止することができる。